

『本則抄』について

山田 巖
木村 晟

ここに採り挙げる『本則抄』(上下二巻)は、わが国文学研究室の編輯にかかる『禅門抄物叢刊』の第八として昭和五十年九月に汲古書院から刊行した資料である。本書の底本には「承応三年歲(一六五四)

暮春上旬 書林豊興堂新梓刊」と刊記ある本学附属図書館収蔵の板本を用いた。題簽『新本則抄』、内題『禅林類聚鈔』とする。内容は『禅林類聚』(二十巻本)から任意に百則を抽出して加注したものである。

本抄の講述者としては『合類書籍目録大全』(午集)が「春夕」と記録している。本抄の本文中には「春積」と出てくる。この春積(または春夕)は位作山陽林寺(福島市小田)二世の盛南舜夷(一五四一寂)か、梅龍山東竹院(埼玉県熊谷市)四世の雪庭春積(一六二七寂)のいずれかであろうが、今のところこれを決する手がかりがない。

それにしても本抄がその成立の基盤を東国に有する禅門抄物であるという事は可能であると思う。なぜならば本抄の本文の形態が

それを具体的に示しているからである。以下このことを証するため本抄に具現するいくつかの表記・表現上の特徴的な事象を採り挙げ、併せて本抄の国語資料としての性格を概観することとする。

(1) 文末指定辞・否定辞・命令表現 一般に抄物の文体は、その文末指定辞が「ゾ」「ヂヤ」「ダ」であるか、「ナリ」であるかによって、口頭語的性格が強いか文章語的性格が強いかに分かれる。本抄に具現する文末指定辞は「ナリ」体専用であるから、かかる観点からすれば、本抄はかなり文章語的傾向の強い抄物であるということができる。しかしながら、本抄の本文を熟視すると必ずしもそうばかりは言えない面も存するように思える。例えば

幾千万トモシラスコ、カシコニ走リマハルソト也 688—14

のごとく、全体の文末は直叙的な「ナリ」体であっても、この「ナリ」が主観表出に多用される「ゾ」を受けているのである。この

「……ゾトナリ」形式の文末表現が本抄には実に多いのである。こ
ういう点からして本抄は、かなり口頭語的要素の強い「ナリ」体の
抄物であると言ふべきである。この面から言えば禅門カナ抄の中
は彼の万安英種の『禅林類聚撮要抄』に極めてよく似た文体の資料
である。

次に本抄に用いられている否定辞については、やはり連用・中止
法が「ズ」(時に「デ」)、終止法が「ヌ」、連体法は「ザル」が専用
で外に特記すべきことはない。過去の打消の助動詞「ナンド」は皆
無である。また「ダ」系のカナ抄たる『巨海代抄』や『大淵代抄』
『大淵和尚再吟』『高国代抄』などに見られた敬意を含む命令表現
「御郎ゼイ」「——シ」「——サシ」「——シマイ」「——サシマイ」
の諸形については、「——サシ」形が一例見受けられるのみである。

鼻孔大頭向下ノ當人ニ成テ見サシ 837—14

(2) 形容詞連用形の原形維持 本抄に現われる形容詞の連用形の原
形維持とウ音便の状況は如何であろうか。まず原形維持の例を次に
一覽する。(未然形+接続助詞「は」を含める。)

- 「あ行」 炎ク 784—4・6 青ク 872—3 忙シク 828—2 堆ク 707—9
- ウルハシク 703—7 遅ク 805—11 同ク 797—9 衆ノ 752—8 多ク 665—9
- 721—6 776—1 819—2 多ク 714—3 「か行」 却来シ難ク 824—3 モテア
- ソヒカタク 691—11 軽ク 750—12 嚴ク 766—6 清ク 832—1 黒ク 856—2
- 「さ行」 親ク 659—12 600—5 662—6 親ク 759—2 858—3 868—3 シワハユク
- 660—1 白ク 662—6 856—7・8 863—11 ス、シク 762—6 少ク 665—9 少ク
- 790—1 スサマジク 715—5 「た行」 高ク 681—2 784—4・6 818—4 827—13

- 873—14 高ク 689—12 「な行」 長ク 661—11 無ク 671—1・9 693—6 705—2
- 730—2 763—5・5 6 774—10 775—11 776—10 777—6 778—10 780—8・8 830—3 850—3
- 無ク 736—13 13 ナク 838—8 莫ク 726—7 間モ無ク 743—5 欠路無ク 851
- 11 何ニト無ク 744—6 無クノ 780—8 無クテ 764—13 「は行」 ハ
- ナハタシクハ 765—1 早ク 775—4 846—8 早ク 730—8 732—12 14 低ク 784
- 4・6 久ク 745—12 765—3 5 767—8 785—12 810—13 829—6 851—5 852—4 860—1
- 齊ク 714—12 深ク 680—5 687—3 691—12 708—2 838—3 深ク 845—2
- 「ま行」 圓ク 727—11 短ク 661—11 空ク 748—9 空ク 710—11 「や行」
- 易ク 798—1 善ク 659—10 善ク 804—2 能ク 764—7 782—9 852—5 871—4 能
- ク 758—10 767—5 782—14 798—2 866—6 ヨク 663—4 671—13 711—1 726—12 751—4 754
- 6 805—6 826—11 833—1 834—12 835—3 840—1 2 861—12 宜ク 789—2 宜ク 867
- 13 「わ行」 悪ク 680—9 741—8 798—10

これに対してウ音便の用例は次の九例に過ぎない。

- イソカハシウ 667—4 キビシウノ 743—11 末黒フ 673—8 久シウ 663—6
- 好フ 851—5 能ウ 865—4 ヨウ 680—7 693—12 696—1
- 他に「長ノ」(662—6)のような活用語尾無表記の例が若干認められ
る。全体として原形維持が優勢であることは『禅林類聚撮要抄』や
『三百則抄』は勿論のこと、「ダ」系の『大淵代抄』をも凌いでいる。

(3) 八行四段活用の連用形 八行四段活用の連用形が促音形をとる
かウ音形をとるかの比率は、禅門カナ抄の中でもその資料によつて
数値が異なっている。次に本抄の例を挙げてみよう。

- ① 促音形(4例) (i) 「テ」承接 叶ツテ 758—11 (ii) 「タ」承接 ヲ
- キナツタル 734—5 叶ツタル 784—13 従ツタル 682—6

②ウ音形(14例)(i)「テ」承接 ウケガウテ 680-5 779-2 チガウテ
 872-3 ツカウテ 681-1 拾ウテ 790-14 (ii)「タ」承接 見失フタル
 871-8 ウラナフタ 847-10 行ウタル 701-2 841-14 行フタル 842-2 カ
 ウタ 868-1 クラウタル 720-14 伴ウタソ 748-5 酔フタレ 839-10
 問題は本文中に夥しく現出する「云テ」「歌テ」「思テ」「叶テ」「問テ」
 「払テ」「笑テ」……のごとき活用語尾無表記の例を促音・ウ音のいず
 れの形に属せしめるかによって結論が異なってくる点にある。

(4)条件句 (一)禅門カナ抄の中では、特に「ダ」系の抄物に原因・理由を表わす条件句を形づくる「ウニハ」(仮定条件)の構文が頻出した。本抄にも「タラウニハ」が七六例、「ナラウニハ」が一二例と特徴的に現われてくるのである。

I タラウニハ \wedge 76例 86.3% \checkmark

サテ嶺ヲ出タラウニハ佛ノ尺ヲ量タルコ也 669-10

砂米トモニ去ケタラウニハ大衆ハ何ヲ喫スヘキソト也 850-6

外に	663	5	11	666	5	671	3	679	6	680	7	10	683	14	690	3	691	5	693	11	
695	5	5	696	9	13	14	700	10	701	1	704	12	706	3	708	9	10	711	1	713	
6	717	12	718	5	8	720	10	725	9	727	2	728	6	735	8	737	7	743	13	746	6
760	1	761	13	773	12	776	3	786	8	787	7	795	12	801	14	802	8	807	14	809	1
4	10	810	8	11	817	8	824	4	825	7	826	8	12	827	7	8	838	6	839	2	841
1	5	844	13	845	14	846	4	5	850	9	851	11	861	2	11	870	9	14	871	8	873
3	8	877	7																		

II ナラウニハ \wedge 12例 23.7% \checkmark

吾レナラウニハ希有々々ト云ラウズソ 660-14

「外に 666-11 683-11 720-11 732-10 761-14 775-12 807-11 849-4 871-6 873-5」
 「ダ」系の『巨海代抄』では「タラウニハ」一五例、「ナラウニハ」
 ○例、『大淵代抄』では「タラウニハ」六六例、「ナラウニハ」五例
 であった。これに比すると本抄には「ナラウニハ」の比率がぐんと
 高くなっている点が特徴的である。

因みに「アラウニハ」の例も挙げると次の通りである。
 若月未——何ト問底ガアラウニハ只向テ道ゾ 831-10
 「外に 808-5 829-1 861-4 計4例」

他に「ウニハ」には「歸去ノ路ヲ識ント欲セウニハ……著ケ難キソト也」(829-1)が一例存する。

(二)次に「ウニハ」よりは国語史的に稍後出のものと考えられる「タラバ」「ナラバ」について、その比率を示してみよう。

I タラバ \wedge 14例 41.2% \checkmark

若他シ他ノ仰山ヲ肯タラハ辜負仰山ニシタルコ也 720-13

外に	688	5	708	12	721	3	730	7	741	2	747	9	749	7	763	14	775	2	797	6	808
1	866	13	870	7																	

II ナラバ \wedge 20例 58.8% \checkmark

甞ガナマヤキナラハ薄ス水リナリトモ消スマジキ也 728-12

外に	671	8	675	8	694	1	699	1	711	5	721	12	727	4	730	6	732	1	733	2	738
8	739	3	745	8	762	1	766	2	779	8	786	13	14	799	7						

この数値を「ダ」系の抄物と比較すると、『巨海代抄』では「タラバ」46%、「ナラバ」54%、『大淵代抄』では「タラバ」37.1%、「ナラバ」63.9%であって、本抄はこの点では「ダ」系のカナ抄に極めて近い性格を有していると言える。

序でに「アラバ」の用例も示しておこう。
鏢ヲヲロノ云フアラハ最モ余也 707 | 13

外に 724 | 6 733 | 11 734 | 7 746 | 2 760 | 12 794 | 6 802 | 2 804 | 14 813 | 8
計11例

(三)次に「處デ」の用例を示す。「處デ」の接続助詞的用法は一般に
関西系の抄物よりも東国系の抄物に豊富に現われるのであるが、本
抄には三三例認められる。

瓢ヲ打ダ着ル處デ悉ク氷リ消スル也 728 | 11
外に 670 | 1 672 | 8 673 | 12 693 | 13 706 | 4 711 | 14 714 | 8 717 | 4 725 | 10 728 | 11 732 | 1
9 735 | 1 752 | 12 753 | 6 758 | 8 9 759 | 5 8 8 776 | 7 777 | 3 780 | 3 784 | 1
13 808 | 6 7 7 7 828 | 9 843 | 14 864 | 7 868 | 3 874 | 4 計33例

この中には「請問也處デ」(735 | 1)のごとく、「處デ」を接続詞と
も認定可能な例が二例(他の一例は759 | 8)存在する。

四「ホドニ」の構文の例は次の通りである。全体で一七七例見受け
られる。その上接語によって分類する。

①也ホドニ 〱 104例

悟ヲ肝要トモツハ佛病也、ホトニ法身ノ病ハ佛病也 678 | 11

外に 659 | 3 662 | 13 663 | 1 664 | 3 667 | 10 673 | 1 674 | 1 3 676 | 8 677 | 6 679 | 1
3 8 681 | 10 14 685 | 1 8 687 | 2 689 | 4 8 690 | 1 4 6 691 | 12 696 | 1
698 | 6 701 | 6 708 | 6 710 | 2 714 | 9 717 | 13 718 | 14 722 | 3 723 | 3 729 | 13 732 | 7
8 735 | 7 740 | 12 742 | 6 743 | 8 13 747 | 4 748 | 2 758 | 2 759 | 7 11 760 | 2 3
13 761 | 11 766 | 12 773 | 5 774 | 4 775 | 6 781 | 9 783 | 9 13 784 | 1 787 | 2 789 | 5
792 | 14 797 | 13 798 | 6 8 802 | 2 803 | 8 13 804 | 11 806 | 5 808 | 5 809 | 11 810 | 11
812 | 2 821 | 13 823 | 5 11 824 | 2 825 | 12 830 | 10 831 | 7 832 | 2 833 | 7 12 834 | 4

839 | 6 840 | 14 841 | 5 844 | 13 849 | 2 850 | 3 853 | 5 9 854 | 3 858 | 1 861 | 6 863
14 864 | 7 868 | 5 870 | 4 872 | 5 876 | 3 5 877 | 7

(2)ゾホドニ 〱 16例

克賓維那今日ノ法戰ニ輪タソ、ホトニ罰錢ヲ取テ白米ヲ買イ大衆ノ
打飲ヲ設ント也 763 | 7

外に 672 | 8 13 700 | 4 741 | 11 747 | 4 755 | 8 763 | 9 11 764 | 10 11 765 | 1
796 | 12 797 | 6 798 | 3 865 | 8

③ダホドニ 〱 2例

武蔵野ナトテ富士ノ頂キニ望タヤウナフタ、ホトニ平地テ高坡ニ望
メハ平地テモ無ク高坡テモ無イ 670 | 14

外に 672 | 2

④ナホドニ 〱 7例

ナセニナレハ業識無明ナル女人ナ、ホトニ何ノ心モ無ク坐ノ込ヨア
ルヲ 775 | 11

外に 706 | 12 741 | 5 764 | 4 778 | 10 833 | 5 865 | 10

⑤タホドニ 〱 14例

我モ三十年修行ノ、ホトニソコヲノ好惡ヲハ粗心得タ、ホトニ何ガ全
提トハスベキソト也 822 | 11

外に 663 | 6 672 | 9 691 | 14 709 | 9 713 | 14 727 | 5 741 | 6 7 9 799 | 3 803 | 1
10 805 | 11

⑥ヌホドニ 〱 8例

苦ト云イ死ト云タガ是非ガ付ヌ、ホトニ美玉也アルヲ雪峯ノ褒美ス
ル處デ早ヤ瑕ガ生ジタソト也 839 | 1

外に 672 | 1 2 6 730 | 10 799 | 2 4 864 | 8

⑦ 動詞ノ連体形 + ホドニ △15例▽

又如何——下ト問フ、ホトニ填——怪トハ此米子ヲ從空放下スル
則ハ盡大地ニ充滿シタソト也 862 14

外ニアル、ホトニ 669 2 云、ホトニ 774 12 擬ス、進語ホトニ 844
10 繫留スル、ホトニ 827 4 問、ホトニ 671 6 716 3 736 7 789 3 822 1
2 830 14 831 1 837 3 9 見、ユル、ホトニ 877 14

⑧ その他 △11例▽

チリシカウス、ホトニ 665 12 見出ソウス、ホトニ 794 6 不、及
一粒ノ米ニホトニ 853 2 ヲセラル、ホトニ 659 13 詔ル、ホト
ニ 790 12 同シ、ホトニ 691 10 同シ、ホトニ 729 6 難キ、是非ホト
ニ 706 10 輕怒ナル、ホトニ 855 1 ……テハ無イカ、ホトニ 749 8
鹿ハアラシ、ホトニ 818 14

参考 ヨク流通也、ホトニコソ、 840 2 (文末)

(五) 「ニヨツテ」の構文は本抄に四七例存する。次に用例の所在を示しておく。

阿育王ハ見付ナサレヌ、ニヨツテ不會ト疑狐ナサル、也ト云テ

外にタ、ニヨツテ 742 1 765 8 789 12 タル、ニヨツテ 707 10 708 14 767 12
9 775 4 793 13 805 6 811 9 11 829 6 849 13 860 8 863 12 870 10 ナニ
ヨツテ 748 11 765 13 ナル、ニヨツテ 664 3 777 13 790 1 805 9 851 8
ヌ、ニヨツテ 664 2 673 1 735 10 746 2 835 5 動詞の連体形+ニヨツ
テ↓コサアルニヨツテ 732 12 806 1 得ル、ニ依テ 806 4 形容詞
の連体形+ニヨツテ↓籥イニヨツテ 725 14 難扶、ニ依テ 761 1
1 ツヨイニヨツテ 663 13 750 3 無イニ依テ 682 1 無筋ニ依

テ 701 9 無端ニヨツテ 757 8 758 14 759 1 781 11 790 6 無キニ
依テ 859 2 その他↓ラサルニ依テ 674 1 与ンニヨツテ 699
11 解脱セシムルニ依テ 725 1

(5) 四つ仮名・開合 本抄における四つ仮名の混乱状況は極めて少なく、「ヂ↓ジ」が一例(「アジハイ」835 13) 見られる程度で他はずべて正用である。

これに対して開合の誤用例は相当数見られる。しかしこれは語によるかなりの偏りが見受けられ、すべての語について一様ではない。しかも「開音↓合音」の例ばかりであり、中でも特に「サウ↓ソウ」が専用されていると言っても過言でない状態である。

① サウ↓ソウ △68例▽

(i) サウ(候)・ゴザサウ(御座候) △61例▽

此人ハ曾見佛來テソウト云也 659 5

其牆外ノ道テハコサソウヌト云也アレハ 736 9

外にソウ 669 1 713 9 732 3 738 9 739 2 741 4 13 13 742 9 746 14 749 7 10 11 758 8 764 1 12 767 7 773 3 779 9 782 7 8 787 13 796 13 799 7 12 805 8 11 815 7 845 14 849 10 858 14 872 12 874 7 876 13
ウズ 743 12 ソウヘ 666 7 680 3 695 6 698 13 722 4 738 8 760 12 805 13 853 3 865 8 868 5 ゴザソウ 659 5 666 12 706 14 712 7 731 14 738 6 744 2 779 7 7 800 9 811 4 824 2 6 866 5
(ii) 動詞ノ活用語尾 + 助動詞「ウ・ウズ」 △5例▽
只御膝下ノ下ニ有テ粉骨イタソウマテヨ 730 11

〔外に 679-14 683-11 794-6 844-13〕

(iii) 副詞「サウ」 △1例▽

ナンタル心ダテ、ソウ云ソト

680-2

(iv) 助動詞「サウダ」 △1例▽

山休去タハ中カ々ソウタソト云ハヌハカリ也

749-9

② ハウ→ホウ △1例▽

奪ハウ、ホウトヨンテユルサヌヲ云也

733-4

③ バウ→ボウ △1例▽

崖俣ハボウくト霞ミ渡テ

845-6

④ ワウ→ヲウ △5例▽

又一説ニハ啖々悉クセハウケガヲウズ、ヨト

798-11

外に 云、ヲウズ 660-14 707-1 云、ヲウゾ 832-13 クヲウル、 714-14

〔参考

「云ウズ者ヲ」(713-5)

(6) 接頭辞

禅門カナ抄の中でも「ダ」系の抄物には接頭辞の撥音形・促音形が実に豊富に見られる。例えば『大淵代抄』などでは

「ランー」「ツンー」「ヒンー」「フンー」「ウツー」「ヲツー」「ツツ

ー」「ヒツー」の諸形が見られる。「ダ」系の抄物ではないが『三

百則抄』にもこれに準じた多様性が認められた。ところが、本抄に

は「ヲツー」と「ヒツー」の二形しか現われて来ない。(4)の条件句

を形づくる「ウニハ」の構文など「ダ」系のカナ抄に準じた形で現

われながら、項目によってはこの接頭辞の撥音形・促音形の例のよ

うに、かなり隔った様相を示す場合もあるのである。

「ヲツー」形 ヲツツルム 870-7 805-13 ヲツツメタル 749-6 ヲツ

ツメテ 697-10 698-4 711-5 727-3 741-12 767-14

「ヒツー」形 ヒツキツテ 748-11 ヒツ、メテ 731-14

(9) 副詞の促音形

東国系の抄物の特徴の一つに副詞の促音形の頻出する点があげられるのであるが、本抄の場合は「ダ」系のカナ諸抄や「ゾ」系の『三百則抄』ほど多くはない。次に用例を示しておこう。

アツト 744-2 カラリツト 837-1 キツト 870-5 急度 666-4 747-11 805-

2 873-7 キラリツト 840-11 クツト 666-8 685-9 749-6 784-5 13 805-13

806-10 807-13 811-5 822-7 837-1 3 867-3 875-13 サツくト 676-2 796-11

サツト 796-12 13 ツ、ト 664-13 665-13 750-3 757-8 762-2 3 781-11 ト

ツクト 741-4 10 トツト 797-10 ハツタト 837-4 ハツチト 678-8

ハツハツト 811-6 ヒョツト 664-8 フツ、ト 738-5 ヨツト 713-2

(トツクニ 799-7)

これに対して本抄の情態の副詞(一部程度の副詞を含む)の中特に非促音形の主要なるものを挙げると次のごとくである。

アラくト 661-11 クルリト 749-3 クハラリト 728-14 丁度 671-4 732

1 764-9 766-7 838-8 チヤクト 741-3 9 ヌルくト 807-10 ハタ

ト 676-7 768-2 838-8 ボウくト 845-6 ホカト 662-2 664-14 740-14 741-

6 742-4 749-14 784-6 ホロリト 784-11 ムズト 807-12 ヤスくト 685-

2

この中で促音形・非促音形の両用が見られるのは次の表に示す二語のみである。

カラリツト(1例)	クハラリト(1例)
ハツタト(1例)	ハタト(3例)

(10)あて字 「ダ」系のカナ抄では特に字音語によるあて字用法の「羊」「羨」「用」「郎」「走」などが多用されるのに、本抄ではこれらの用例は皆無である。ところが副詞「向」「向ウ」や接頭辞「末」「暮」などはまま用いられている。いくつか例を示しておく。

向 671-13・14 向ウ 756-14 817-5 835-6 837-14 向ウ 704-14 末黒フ 673-8
 末直ク 698-13 末ッ直 831-1 暮直 762-3 暮ッ直ク 830-14 暮夜半 832-12
 あて字「末」「暮」に対しては「マツハダカ」(787-4)のような仮名書きの例も見受けられる。

また「急度」(666-4 747-11 805-2 873-7)「丁度」(671-4 732-1 764-9 766-7 838-8)は見られるが「卒度」は出て来ないのである。「欠路無ク」(851-11)は一例認められる。抄物一般に多用される逆接的接続詞「乍去」は本抄には二例(688-9 782-14)存するが仮名書き「サリナガラ」は現われて来ない。概して本抄のあて字の類は「ダ」系のカナ抄のそれよりも種類が少ないのである。

(11)その他 カナ抄の類には関西系・東国系の別を問わずその語理的・説教的のゆえに、院政鎌倉期以来の表記・表現法の特徴を伝えるいることが多く、本抄にもそれが具現している。例によってその主要なるものを列挙しておこう。

①「……ツ……ツ」 〱6例〱

17 打ツ喝ツツ縦奪スルハ841-2 打ツ喝ツツ正令當行ノ間ハ842-1 互

ニ喝ツツ喝セラレツシタハ744-8 磋ツツ琢ツツ磨ツツノ727-11 俯ツツ仰ツツノ826-2 ホメツツシツシタハ680-12

②体言 + 如キ(ノ) 〱14例〱

(i)体言+如キノ 〱12例〱
 廣、額如キノ分明ナル一佛ハ665-8 風、穴如キノ宗師ヲ669-12 雲、門如キノ佛種増長ヲ680-14 雲、門如キノ弄潮水連ヲ681-5 雲、門如キノ打鳳羅龍ヤウ也681-6 乾、峯如キノ知己ニ681-7 智、威海兄如キノ獅子兒702-11 百、獸如キノ異獸ハ702-12 無、著如キノ顛預ガアル也714-4 徳、山臨、濟如キノ有力底ガ有テ730-3 銀、鈎如キノ天子ノ和光モ791-13 趙、州如キノ人ニ841-1

(ii)体言+如キデ 〱1例〱
 趙、州如キテ無ンハ知ルマジキ也

(iii)体言+如キハ 〱1例〱
 石、霜如キハアルマジキソト也

③係助詞「バシ」 〱23例〱
 (i)疑問表現に用いられるもの 〱14例〱
 トノ父子間談ノ轉側ノ處ニ到テハシアルカ

外に 659-9 662-4・4 710-1 726-14 760-11 783-2 811-4 818-12
 13 826-1・7

(ii)禁止表現に用いられるもの 〱9例〱
 此兒ヲヤスノト生ジタトハシ云ウナソ

外に 669-1 689-5 698-7 711-3 761-11 802-11 182-6 876-5
 685-2

④「コソ……コソ」 〱8例〱

定ラス時コソ雲門ノ一佛ヨト見タ時 671-3

〔外に 734-7・12 746-13 797-2 805-9 838-7 865-6〕

〔参考〕其レコソ早ヤ舌長ニ説テコザソウ、夫レコソ早ヤ祖師意ノ説似ノ聞セヤウデソウ、782-8 アノ邊テコソアルラウ、829-9

⑤二段動詞の一段化

謝家——前我是——郎ト踏スヘル也

〔参考〕

已前ニ和尚ニ問ハレル異類中行ノ那因縁ヲハ

798-12

⑥(o)母音と(u)母音の交替(O↔U)

カスエナサレテ675-5 文地カスヘ7691-4 教意ノカスヘ7698-9

720-3 カマヒソシ864-2

⑦語頭の「ワ」の「ハ」表記

ハタカマル713-10 無シレ煩744-14 ハヅライ814-3 アヤシミハ

ラウ873-6

⑧その他

貴ヒ849-3 (イ↓ヒ) 塩清ケニナラウスヤラ知ラレヌソ768-6 (ヤラ……ヌ) 洛ハタ、ユルトヨム也771-14 (ハ行音↓ヤ行化)

(12)訓読資料

①傍訓

〔あ行〕 751-10 安仁857-3 生ナガラ808-14 軍場765-8 何ク797-12 未審855-11 未審700-9 己自803-5 不レ甘802-2 奉タル712-7 積 870-5 撮ン742-3 謚857-2 行684-3 抑ヤウズ820-5 惶700-11 大ナル789-9 衆752-8 〔か行〕 展回717-4 鵠856-8 元亮 857-1 踢起テ765-9 〔さ行〕 下タ805-10 覺サシメ774-11 鮫721-12

乃至752-5 775-14 茂テ829-1 敷752-6 萎752-8 下部734-14

雪764-4 直ヲ831-4 投775-5 居タル814-10 毀751-9 余時キ

752-6 〔た行〕 長819-3 立740-6 経緯814-10 経875-11

旅854-8 瑤777-7 遇778-14 矯テ782-1 桮878-4 近ク724-6

地形831-13 苑819-12 陌々703-6 具ニ812-3 折826-2 収トノ842

9 搏714-5 〔な行〕 不脱842-14 〔は行〕 側リ783-12 擬

ル795-11 烈ノ845-7 機814-10 醜794-7 屈764-10 浴リ716-6 冷

テ778-11 將849-12 下724-11 俯ツ826-2 謙テ838-9 〔ま行〕

却814-3 實767-11 852-8 妄721-14 自857-2 自737-4 自754-9

自散720-7 各本758-8 向757-1 順タル723-12 旋826-2 経回ル

824-3 消得タ739-11 不レ將759-14 百般813-1 〔や行〕 綸スル

813-3 安ノ721-9 弱875-7 経緯814-10 四方872-3 〔ら

行〕 呂804-4 呂律689-3 令857-3 〔わ行〕 煩744-14

②捨て仮名 主要なるもののみ採録

〔あ行〕 足シ737-11 足シ667-4 737-4 後ロ足シ727-7 蘆シ673-2

東マ808-4 間タ683-4 702-2 719-13 752-11 847-5 嵐シ845-7 大息キ756-1

2 勢イ838-10 軍サ688-3 765-8 聊カ718-5 石シ亀メ706-8 石シヘン745

13 頂キ670-14 873-12 頂キ741-6 790-6 845-4 何ク664-8 876-13 何レ715-1

7 782-13 13 865-11 866-14 何レ668-6 804-5 839-12 古ヘ682-12 703-6 710-8

737-14 775-5 780-13 847-11 古ヘ708-3 841-14 今マ742-10 今マ668-10 742-

7 789-10 833-5 今マ人739-6 色ロ815-3 後ロ足シ727-7 薄ス氷リ728

12 上ヘ688-9 上ヘ677-14 853-3 枝タ669-11 己レ664-9 687-8 736-

1 3 780-4 799-14 803-6 816-12 824-11 14 858-9 869-13 874-11 己レ733-11

734-13 836-12 己レメ853-9 面テ751-3 〔か行〕 向ウ756-14 817-5

835 6 837 14 向ウ 704 14 頭へ 811 10 眼頭ベ 784 1 柿キ 866 3 影ケ 713
 8 彼コ 696 2 745 9 此コ 彼コ 799 11 此コ 彼コ 714 7 頭ラ 726 1
 数ス 664 11 数ス 715 12 12 数ス 773 14 775 14 830 7 8 方タ 677 13
 方タ 702 14 703 12 片タ 足 731 6 片タ 推シ 765 5 角ト 732 5 河ハ 上
 779 4 壁ベ 689 12 石シ 亀メ 706 8 渠レ 816 1 顔セ 780 13 冠リ 844 1
 2 岸シ 878 4 瑕ス 677 8 疵ス 692 3 ロチマ子 712 12 紅イ 813 13
 紅イ 822 11 839 9 872 2 此コ 彼コ 799 11 此コ 彼コ 714 5 意ロ 791 5 言
 口 668 4 716 4 794 7 815 5 818 5 837 4 心ロ 737 6 774 12 776 9 812 3 4
 心ロ タテ 680 3 言バ 714 7 805 10 851 11 言ハ 702 10 809 5 以 來 タ 607 1
 3 714 9 781 1 818 2 10 856 3 863 14 拳シ クラベ 741 2 氷リ 728 14
 薄ス 氷リ 728 12 此レ 804 5 之レ 824 7 是レ 707 13 714 6 752 12 13 776
 3 793 11 795 9 803 14 821 2 830 4 835 1 比ロ 787 11 811 3 声へ 694 1
 734 9 804 6 7 822 6 叫ビ 声へ 811 6 「さ行」 疆イ 875 12 先キ
 787 6 先キ 701 2 846 8 爪 先キ 793 9 下モ 793 10 下モ 862 11 下モ
 部 647 11 標へ 681 2 数ウ 715 12 直ラ 831 4 直ラ 831 6 只直ラ ニ
 805 7 都テ 759 14 785 9 末エ 668 14 669 6 末へ 691 3 末へ 701 12 814
 14 819 4 877 14 関キ 671 12 其コ 680 4 697 10 701 4 725 12 778 8 801 3
 868 7 其コ 764 9 830 4 865 7 867 3 底コ 688 14 底コ 意 688 9 空ラ
 690 9 其レ 706 14 714 9 720 9 11 728 9 757 4 758 11 782 1 806 9 818 2
 10 840 6 852 9 869 8 其レ 667 3 675 8 856 3 863 14 874 1 夫レ 782 2 797
 1 805 9 813 2 834 3 839 13 841 4 842 6 858 2 864 10 夫レ 730 9 748 3
 夫レ 728 8 「た行」 類イ 714 6 長ケ 766 9 調へ 777 8 只タ
 659 11 只タ 813 4 但タ 729 7 唯タ 726 9 只タ 中 727 8 741 8 徑チ

為メ 669 2 752 4 6 755 8 与メ 761 10 カラ 791 14 面ラ 808 12 時キ
 802 7 時キ 669 1 704 12 752 6 11 795 7 所ロ 752 12 處ロ 752 11 「な
 行」 半バ 675 12 涙タ 703 2 何ニ 765 2 何ニ 物 673 6 猶ラ 752 6
 何ン 660 6 668 13 679 14 680 9 700 10 707 9 744 12 何ン 712 9 735 1 802 10
 836 9 後チ 665 11 後チ 780 10 法リ 698 3 「は行」 計リ 732 7 829
 5 斗リ 672 1 肌へ 746 12 肌へ 747 1 肌エ 748 5 太タ 695 8 846 11
 854 10 甚タ 833 9 光リ 753 7 蹄メ 704 7 人ト 748 5 一ト 工夫 742 1
 10 一ト 接シ 824 4 一ト 手 824 4 一ト 徧 参 742 7 一リ 777 12 孤リ
 711 14 節シ 669 11 二タ 品 726 10 鋒キ 767 11 埃リ 765 9 佛ケ 808 14
 邊リ 703 4 「ま行」 薪キ 790 14 真ト 838 1 末ツ 直 831 1 蕎ツ
 直ク 830 14 又タ 806 5 809 6 821 13 亦タ 866 7 復タ 752 1 也タ 775 1
 14 821 14 却タ 818 6 迄デ 843 6 眸リ 807 4 稀レ 710 11 807 6 道
 チ 736 6 路チ 716 11 水ツ 811 8 水ツ 海 811 8 自ラ 838 10 翠リ 710 1
 8 緑リ 813 13 緑リ 822 11 皆ナ 660 12 669 3 皆ナ 675 6 716 1 733 7
 804 1 854 6 857 4 860 8 南ミ 703 11 都コ 808 4 昔シ 732 2 昔シ 687
 1 8 紫キ 色 791 10 下ト 752 6 元ト 789 10 843 10 本ト 669 6 本ト 816
 1 者ノ 668 14 夢物 語リ 719 10 「や行」 疾イ 686 6 暗ミ 673 8
 故へ 777 8 終夜ラ 843 11 自リ 752 13 818 3 「わ行」 我レ 660 5 我
 レ 673 14 729 13 吾レ 660 13 吾レ 711 7 「活用語の語幹を送れるも
 の」 温マリ 834 6 預カラヌ 816 13 818 6 擇ラ マズ 712 9 落トセハ
 677 8 重モ ケレトモ 776 14 苦ル シンタル 802 12 上ホ ル 858 9
 「動詞の連用形の名詞化するもの」 錯リ 824 7 目當テ 681 3
 片タ 推シ 765 5 暮レ 824 14 夕暮レ 824 10 調へ 777 8 調へ 777 8 墓記
 シ 843 2 巧ミ 814 5 塩漬ケ 768 6 流レ 717 1 始メ 819 4 初メ 778 8

働キ 740-12 741-1 11 727-13 14 742-14 765-10 11 謾り 807-8 辨へ 774-10

〔その他〕 受ケ太刀 741-10 境目 731-8 10 叫ビ声へ 811-6 取り

道 735-2 休ミ派 678-14 呼ヒ声 804-1

③訓注

〔あ行〕 裏ハノホル縣ハアカタトヨム也 697-6 縣ハアガタトヨ

ム也國ノサカイ也 813-14 商量ノ二字ハアキナイハカルトヨム也 734-

3 諦ハツマビラカ又アキラカトヨム也 720-2 群ハムラカルトモ

アツマルトモヨム也 777-4 擬ハアテカウトヨム也 698-3 瘠ハヤセ

ヤマイ癩ハアト 830-5 愛ハアハレムトヨシテ取タル也 736-13 三

際ハアイタトヨシテ欲界色界無色界ノ三世ノ間也 755-11 脂ハアフ

ラツクトヨシテウルハシキ也 703-8 勻ハ徧也アマ子シニラウ 736-

4 恠笑ハアヤシミハラウトヨム也 873-6 又請訛ハ二字トモニア

ヤマリトヨム也 795-3 籠ハアライトヨム也 851-10 精ハコマカ鹿ハ

アラシホトニ 818-14 堂ハ露堂々ト使テアラハストヨム也 848-6 氣

ハ氣息ト使テイキトヨム也 863-9 開ハイソガハシ嗽ハサハカシウ

レウ 706-5 蘇ハイヌエトヨム也 852-7 搜ハウカガウ檢ハカンガウ

ルトヨシダ 803-3 犢ハウシノコ粘ハヲウシ特ハメウシ 872-7 背ハ

ウシロ同ハマエタホトニ 672-2 搏ハトルツカムウツミギル 714-6

蹲ハウツクマルト云字也 802-8 奪ハウホウトヨシテユルサヌヲ云

也 733-4 開ハイソガハシ嗽ハサハカシウレウ 706-5 惆悵ハ二字トモ

ニウレウトヨム也 884-1 擇ハエラミ捨ルヲ云也 726-10 揀ハエラミ取

ルヲ云イ 726-10 揀擇ハ二字トモニエラムトヨム 726-9 諡ハヲクリナ

ス 857-10 紳ハヲビトヨム也 718-6 洪ハヲ、イ也 718-12 浩ハヲ、イナ

リヒロシナミ 868-8 鈍ハニブシ籬ハマカキ儻ハ覆也ヲ、ウ 709-12 淹

ハヒタスヲ、ウト云 768-10 寔ハヲウソラトモタツトモヨム也 705-5

〔か行〕 盤ハハタカマル屈ハカ、ムトヨム也 713-10 屈ハカ、ム

トヨム也 812-2 閃ハヒラメク爍ハカ、ヤクトヨシテ 676-13 檻ハカ

キトモスイガキトモヨム也 729-6 枚ハカズ秤ハハカリ 857-1 貼ハ

ツク體ハカタチ 696-10 象モ形モカタチト誦タレトモ 831-13 象トハ

未ル顯カタチ也 831-14 骸ハカハ子又ホ子トモヨム 823-1 焦ハヤ

ク軛ハカハラトヨム也 728-10 變ハカハル弄ハモテアソブトヨム也

776-5 化モ變モカハルトヨム也 813-12 誼ハカマヒソシ寂ハシツカ

トヨム也 864-1 甕ハカメ也 870-11 巡狩ハメクリカリストヨム也 700

-14 搜ハウカガウ檢ハカンガウルトヨシダ 803-3 涯ハキシホトリ

俊ハトシ 872-14 疵瑕ハ二字トモニキストヨム也 692-12 玷ハキスト

ヨム也 869-7 嚴ハキビシ、トヨム也 708-8 雪ハキヨメントモヨム

也 764-4 切ハキル磋琢磨ハ三字トモニミガクトヨム也 727-10 抹ハヌ

ル又クダクトヨム也 703-7 陪ハマシハルクラウル埃ハチマタ 714-14

朦朧ハ二字トモニクラシトヨム也 700-14 猖狂ハ二字トモニクルウ

トヨム也 812-13 削ハケツルト誦也 847-6 蹴ハケル踏ハフムトヨム

也 811-2 耶姓ハタマシイコ、ロ 779-6 梢ハコスエ蓋ハツケナ 768-

9 詞ハコトバトヨム也 858-7 精ハコマカ鹿ハアラシホトニ 818-14

〔さ行〕 巍ハタカシサガシ 723-8 倒退ハサカシマニシリソクト

ヨム也 727-7 青旗ハ酒ハヤシ也 675-13 郷邑ハ二字トモニサト、ヨ

ム也 857-10 開ハイソガハシ嗽ハサハカシウレウ 706-5 凄ハスサマ

シサムシ 715-7 呵ハシカル 685-12 鋪ハシクトヨシテミセタ 681-12

誼ハカマヒソシ寂ハシツカトヨム也 864-1 寥々ハシツカ也 863-7

倒退ハサカシマニシリソクトヨム也 727-7 檻ハカキトモスイガキ

トモヨム也 729-6 拯ハタスクスクウ 855-6 濟ハスクウハ 855-6
 凄ハスサマシサムシ 715-7 渾ハスベテトヨム也 831-11 亦磨ハスル
 トモヨム也 727-11 磨ハスル又ミガクト誦也 847-7 褒貶ハホメソシ
 ルトヨム也 680-6 泄ハモラスソ、ク 690-7

「た行」 巍ハタカシサガシ 723-8 嶽ハヲカトモタケトモヨム也
 785-6 拯ハタスクスクウ 855-6 祗管ハタダ也 776-3 正患トハタ

ハタ、ユルトヨム也 717-14 端ハ正也テタ、シ、トヨム也 729-2 滔
 マチ濺ハホノヲ 869-10 裁ハタツトヨム也 860-12 璨ハタマ報ハムク

ウ 692-7 瑞ハタマトヨム也 863-11 璞ハタマ 692-7 耶姓ハタマシ
 イコ、ロ 779-6 隊ハタムロニストヨム也 776-1 住ハスム持ハタモ

ツトヨム也 712-6 徑往ハタ、チニユクトヨム也 876-2 陪ハマシハ
 ルクヲウル埃ハチマタ 714-14 落英ハチマタ也 675-13 刹塵ハ二字共

ニチリトヨム也 755-14 雕ハチリバムエルホル 824-7 搏ハトルツカ
 ムウツミギル 714-6 撞ハツクトヨム也 726-1 貼ハツク體ハカタチ

696-10 梢ハコスエ蠶ハツケナ 768-9 咄ハツタナシトヨム也 685-10
 浴啄ハ二字トモニツ、クトヨム也アレハ 782-11 諦ハツマビラカ

又アキラカトヨム也 720-1 解脱ノ二字ハトキヌクトヨム 724-14 涯
 ハキシホトリ俊ハトシ 872-14 杼ハトチノ木停ハト、ム 814-9 杼ハ

トチノ木停ハト、ム 814-9 享ハ享通ト使テトヲルトヨム也 854-11
 搏ハトルツカムウツミギル 714-6

「な行」 咨嗟ハ二字トモニナケク 692-6 打ハ成也ナス 840-4 浩
 ハヲ、イナリヒロシナミ 868-8 懊惱ハ二字トモニナヤムトヨム也

690-9 憎ハニクムトヨシテ捨タル也 736-13 鈍ハニブシ籬ハマカ

キ懐ハ覆也ヲ、ウ 709-11 匀ハ徧也アマ子シニヲフ 736-4 解脱ノ二
 字ハトキヌクトヨム 724-14 抹ハヌル又クダクトヨム也 703-7 撻ハ
 子バガハトヨム也 765-12 黙ハノブル劃ハヒクトヨム也 692-8 裏ハ
 ノホル縣ハアカタトヨム也 697-6 程ハノリトヨム也 698-3

「は行」 枚ハカス秤ハハカリ 857-1 筭壽量ハ何レモハカルトヨ
 ム也 715-7 商量ノ二字ハアキナイハカルトヨム也 734-3 藕花ハハ

スノ花也 779-13 機ハハタモノトヨム也 814-9 臉ハホゾ又ハラトヨ
 テ懐中也 793-9 撥ハハラウト誦也 847-6 胎ハハラム 779-14 渺ハ

ハルカ 868-8 茫ハハルカトヨム也 836-6 黙ハノブル劃ハヒクトヨ
 ム也 692-8 淹ハヒタスヲ、ウト云 768-10 閃ハヒラメク爍ハカ、ヤ

クトヨシテ 676-12 寬ハヒロシ廓ハホガラカトヨム也 746-3 浩ハヲ
 、イナリヒロシナミ 868-8 渺ハヒロシ瀰ハミナキル 840-9 防ハフ

セクトヨム也 877-10 索ハモトム碑ハフダ 845-1 蹴ハケル踏ハフム
 トヨム也 814-2 廓ハホガラ力爾ハ付、字也 725-13 寬ハヒロシ廓ハホ

ガラカトヨム也 745-3 臉ハホゾ又ハラトヨシテ懐中也 703-9 涯ハ
 キシホトリ俊ハトシ 872-14 骸ハカハ子又ホ子トモヨム 823-1 瞥ハ

タチマチ濺ハホノヲ 869-10 褒貶ハホメソシルトヨム也 680-6 雕ハ
 チリバムエルホル 824-7

「ま行」 籬ハマカキ懐ハ覆也ヲ、ウ 709-11 翳ハマケ也 847-5 陪
 ハマシハルクヲウル埃ハチマタ 714-14 區々ハマチ、也 667-6 692-6

737-12 背ハウシロ同ハマエタホトニ 672-2 毛毳ハマリ也 750-12 磋琢
 磨ハ三字トモニミガクトヨム也 727-11 琢ハミガク 824-7 磨ハスル

又ミガクト誦也 847-7 搏ハトルツカムウツミギル 714-6 潰ハミタ
 ル、トヨム也 823-2 途モミチトヨム也 698-2 渺ハヒロシ瀰ハミナ

キル 840-9 寰中トハミヤコ也 705-4 賞ハモテアソブ鑑ハミル 692-
 5 相ハ相見ト使テミル也 840-4 璨ハタマ報ハムクウ 692-7 哽咽
 ハ二字トモニムセブムセルトヨム也 685-12 哽咽ハ二字トモニムセ
 ブムルトヨム也 685-12 群ハムラカルトモアツマルトモヨム也 77-4
 群ハムラガルトヨント多キヲ云也 800-4 犢ハウシノコ牯ハヲウシ
 特ハメウシ 872-7 巡狩ハメクリカリストヨム也 702-14 市ハメゲル
 803-1 賞ハモテアソブ鑑ハミル 692-5 變ハカハル弄ハモテアソブ
 トヨム也 776-5 索ハモトム碑ハフダ 845-1 泄ハモラスソムク 690-7
 漏泄ハ二字トモニモラストヨム也 685-11 漏泄ハ二字トモラストヨ
 ム也 757-3 漏泄ハ二字共ニモラストヨム也 861-9 漏逗ハ二字トモ
 ニモラストヨム 811-3
 「や行」 焦ハヤク甄ハカハラトヨム也 728-10 瘡ハヤセヤマイ癩
 ハアト 830-5 傷ハヤフルトヨム也 790-1 徑徃ハタ、チニユクトヨ
 ム也 876-2 饒ハユルヤカ 685-12 可ハヨシトヨム也 849-14
 「わ行」 盤ハハタカマル屈ハカ、ムトヨム也 713-10 恠笑ハアヤ
 シミハラウトヨム也 873-6 餌ハエバトヨム也 868-10 雕ハチリバム
 エルホル 828-7 犢ハウシノコ牯ハヲウシ特ハメウシ 872-7 嶽ハヲ
 カトモタケトモヨム也 785-6 雄ハヲントリ 723-9

【附記】 本稿は『禅門抄物叢刊』第八の『本則抄』（昭和50年9月汲
 古書院刊）の「解題」（三）国語資料としての性格（四）訓読資料）として
 執筆したものである。